

## 『with コロナに向けて』

ゴールデンウィーク(GW)も終わりましたが、久々に行動制限のない休日を満喫された方々も多いことと思います。一方、医療の立場からはこの制限緩和の影響が、1～2週間後にどのように表れるのか不安もあります。



政府からは、経済再生担当相が GW 前に「普通に通常の GW を過ごしてください」とメッセージを発信していました。もちろん基本的感染対策を守ることを最低限のマナーとしてのことであるでしょうが、いささかフライング気味の発言であったようにも感じます。欧米や韓国でも行動制限を緩めていることを勘案してのメッセージであると思いますが、国によりそれぞれの社会的事情は大きく異なります。

先月末に公表された米国疾病対策センター(CDC)のデータは COVID-19 の感染による米国内の抗体保有率を発表しました。2021 年 12 月には 30%強であったものが、本年 2 月には約 60%に急増しています。特に小児で高く 17 歳以下では 45%から 75%に増加していました。日本でも国立感染症研究所が国内の感染による抗体保有率の調査結果を発表しました。それによると我が国の COVID-19 感染者は人口の 4%強と推定されています。検査対象の設定もあり、実数はもう少し多いとも考えられますが、米国と比べるとはるかに少ない比率といえます。

米国の COVID-19 による累積死亡者数は 99 万人以上で、人口比で見ると日本の 10 倍以上です。これは英国、フランスも同様であります。この数字からは、日本のコロナ対策や国民の努力が欧米に比べ素晴らしかった証であるといえるでしょう。しかし一方で、感染による抗体保有率が低いこと、言い換えれば新型コロナウイルスに対する免疫が十分ではない可能性が高いということは、今後 with コロナに向けての制限緩和という点からは不利な側面であるともいえます。

コロナワクチンに関して、60 歳以上の高齢者に対しての 4 回目接種が近く始まります。しかし、若年層では 3 回目ワクチンも予想に反して低い接種状況となっています。

COVID-19 既感染者が欧米に比べて低い我が国では、ワクチン接種率が上がらなければ、免疫が十分に獲得されていないとも言え、欧米並みの大胆な緩和は時期尚早と考えられます。もちろんいつまでも厳しい制限を続けることには問題山積と思いますが、状況をよく見て、慎重に制限緩和していく政策が望ましいのではないのでしょうか？